

本当はすきだった



いつの頃からか



私はいつも  
一人だった...



子供の頃は  
友達がいいた



夕いぢゃないけど...

そのうち 友達は  
いなくなった

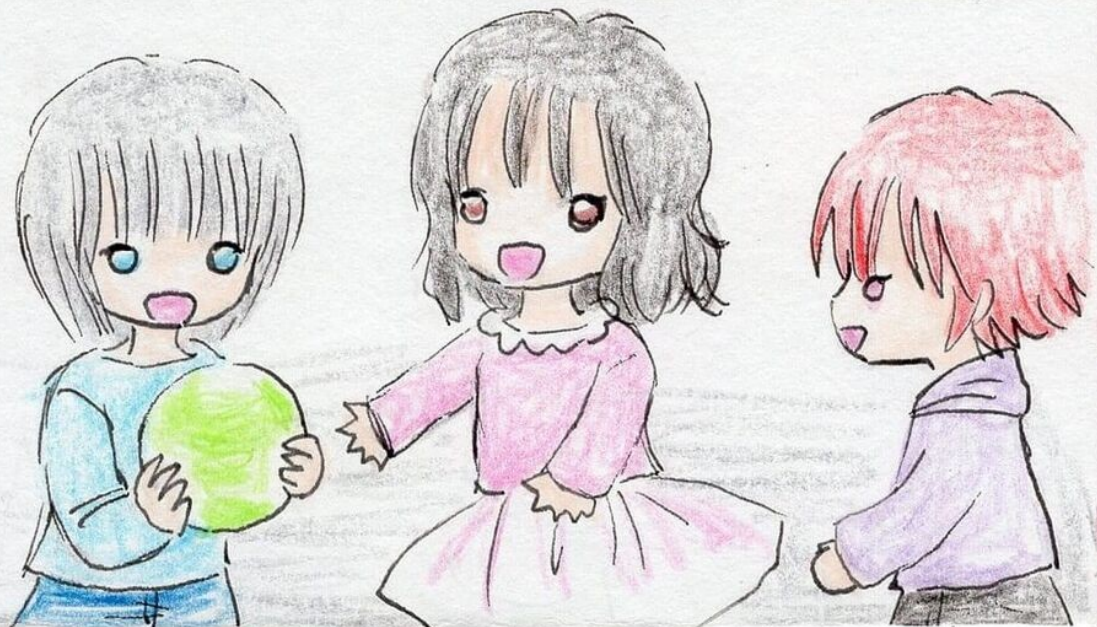


あの男の子のせいで...

私には  
ふかふかな  
男の子が  
2人いた



ふかいと君は  
その2人とよく  
あそんだ



私は元気で男の子みたいだった



中学でその2人と  
同じクラスになると



← おとなしく  
なった



2人は私をいじめた

そのうちみんなに いじめられるようになる



友達はいなくなった



悲しかった  
ふかい心は  
やさしかった  
のに



私は学校にいかなくなった  
さみしくて 1人で泣いた



でも生きて  
いかなくちゃ



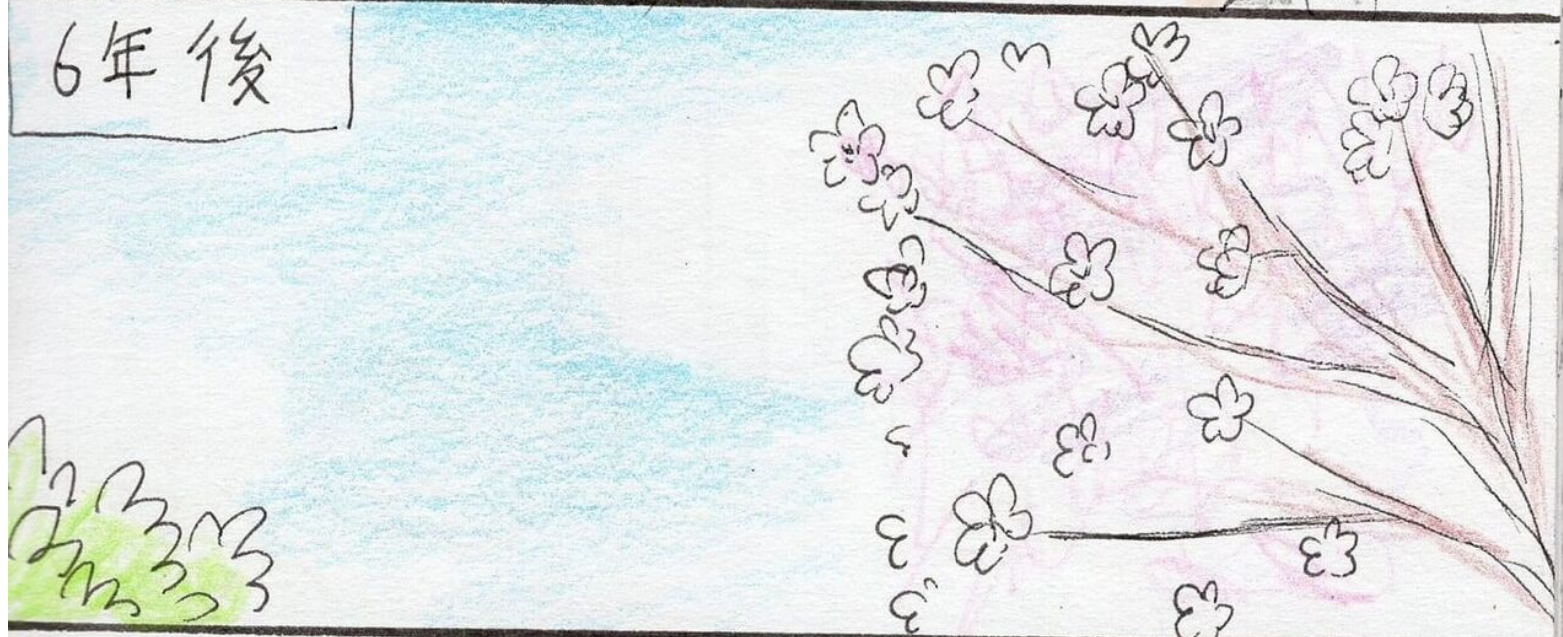
男の子が  
小布い...  
男の子が  
キライ...



もう忘れよう....



6年後



私は二十歳になった  
やりたいこともなく  
毎日あそんで  
すごしていた



ある日両親がいなくなった 海外旅行に  
いっから 亜美のお世話はある人に頼んだからと...

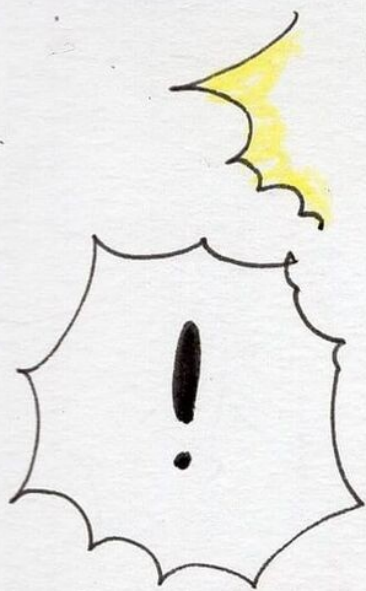


ガチャ



お父さんたち  
帰ってきたの  
かな? ○○○





大丈夫か亜美...



ひさしバリ

誰...?



俺たちだよとなりに  
住んでる



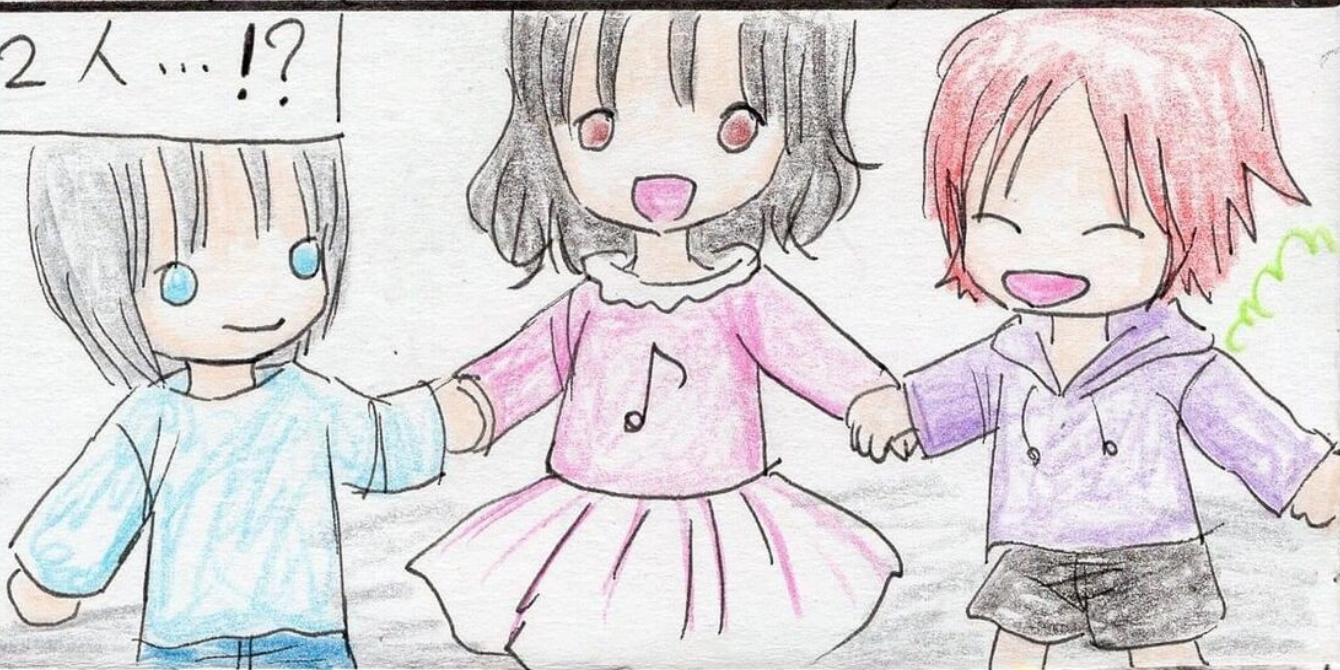
隼 ←

敦 →



隼(じゅん)と  
敦(あつし)だよ

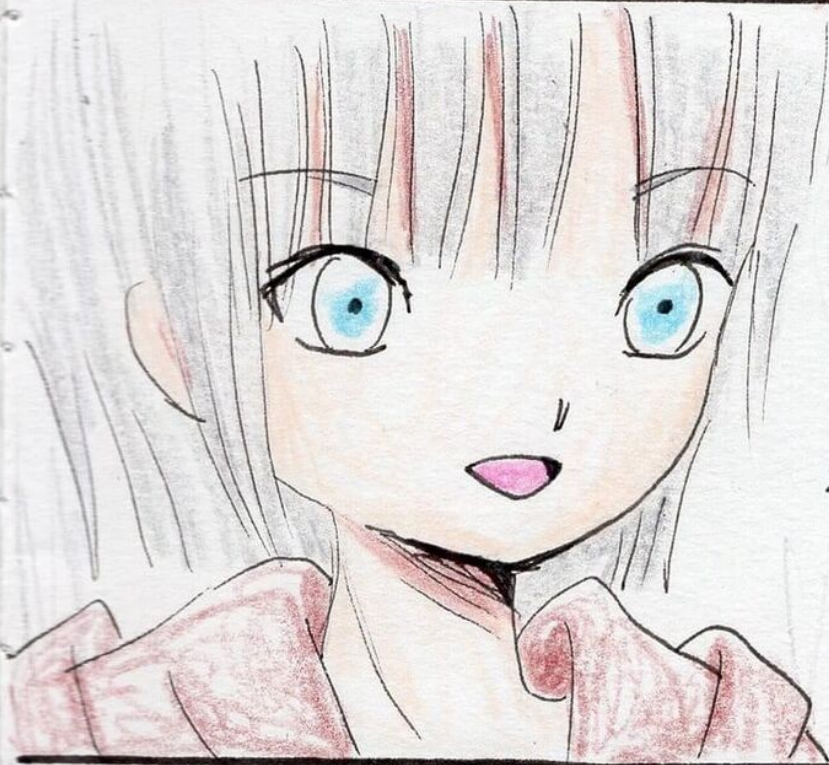
あの2人...!?



どうして 鍵...  
もってるの？



亜美の親父さん  
から 預かったんだ  
亜美の世話をする  
ようにと



そんな...  
嫌よ  
こんな人たちに  
たすけてもらう  
なんて...

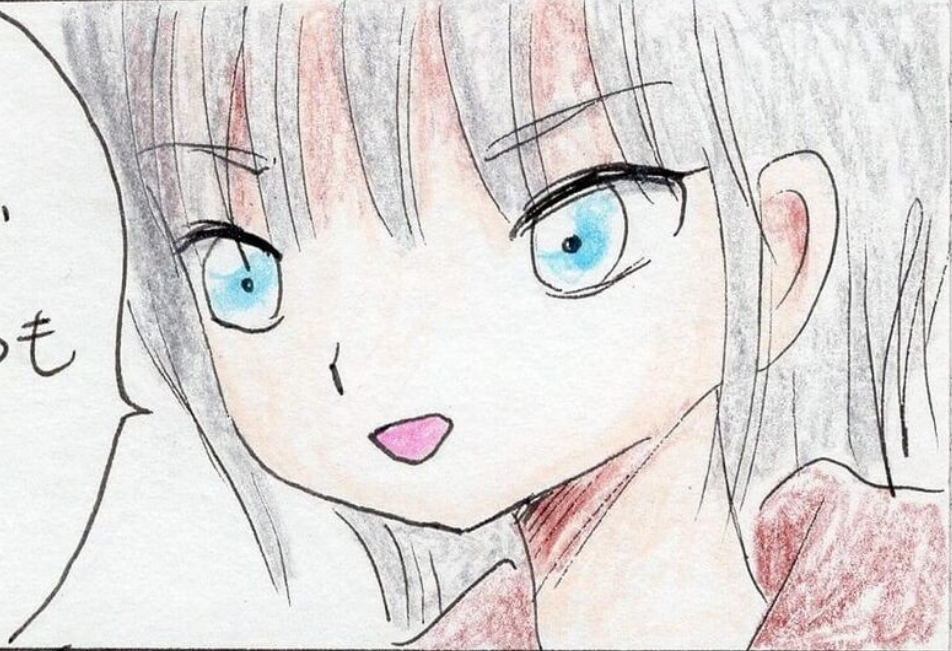
怖い...







これから  
俺たちはここで  
暮らすから いつも  
そばにいるから  
安心しろよ



あなたちなんか  
いない方が安心するわ  
昔 私をいじめた  
じゃない...



あの頃は...  
ごめん...  
かゆいかったから...



泣くなよ...  
ごめん...  
好きだったんだ  
亜美のこと...



え... 私が好き...?



嫌いだから いじめてるのかと思っていた...



ごも...



私は嫌いだよ...

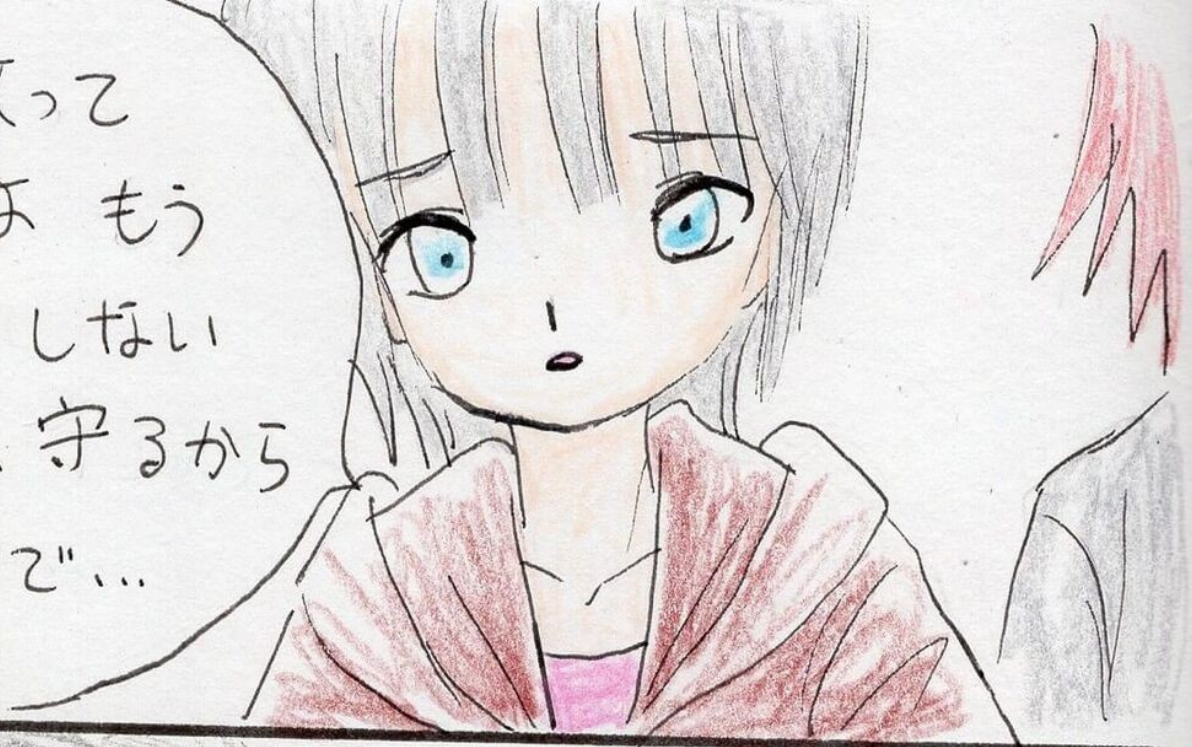
隼も敦も

嫌いだよ...

帰ってよ!

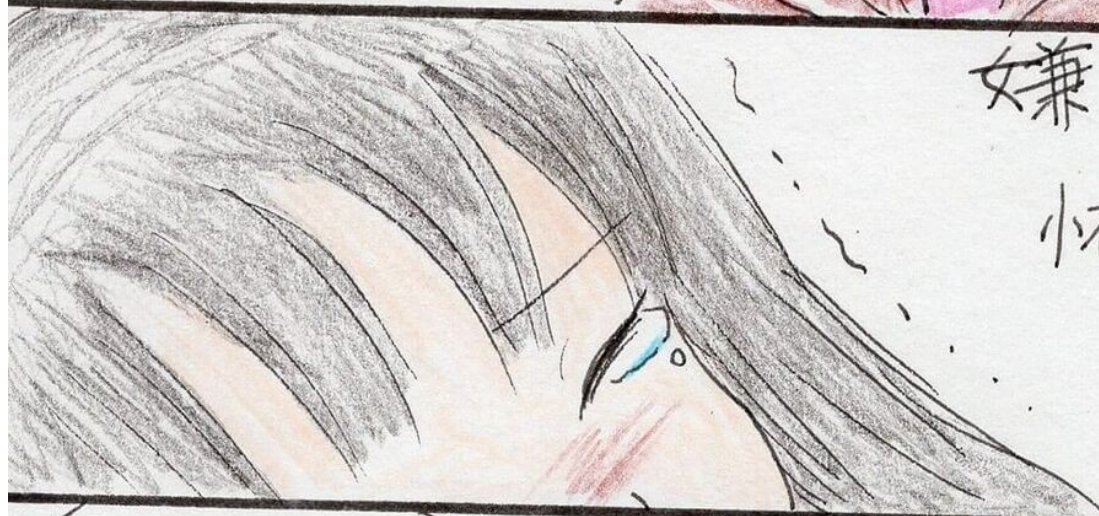


亜美を放って  
おけないよ もう  
いじめたりしない  
これからは 守るから  
泣かないで...

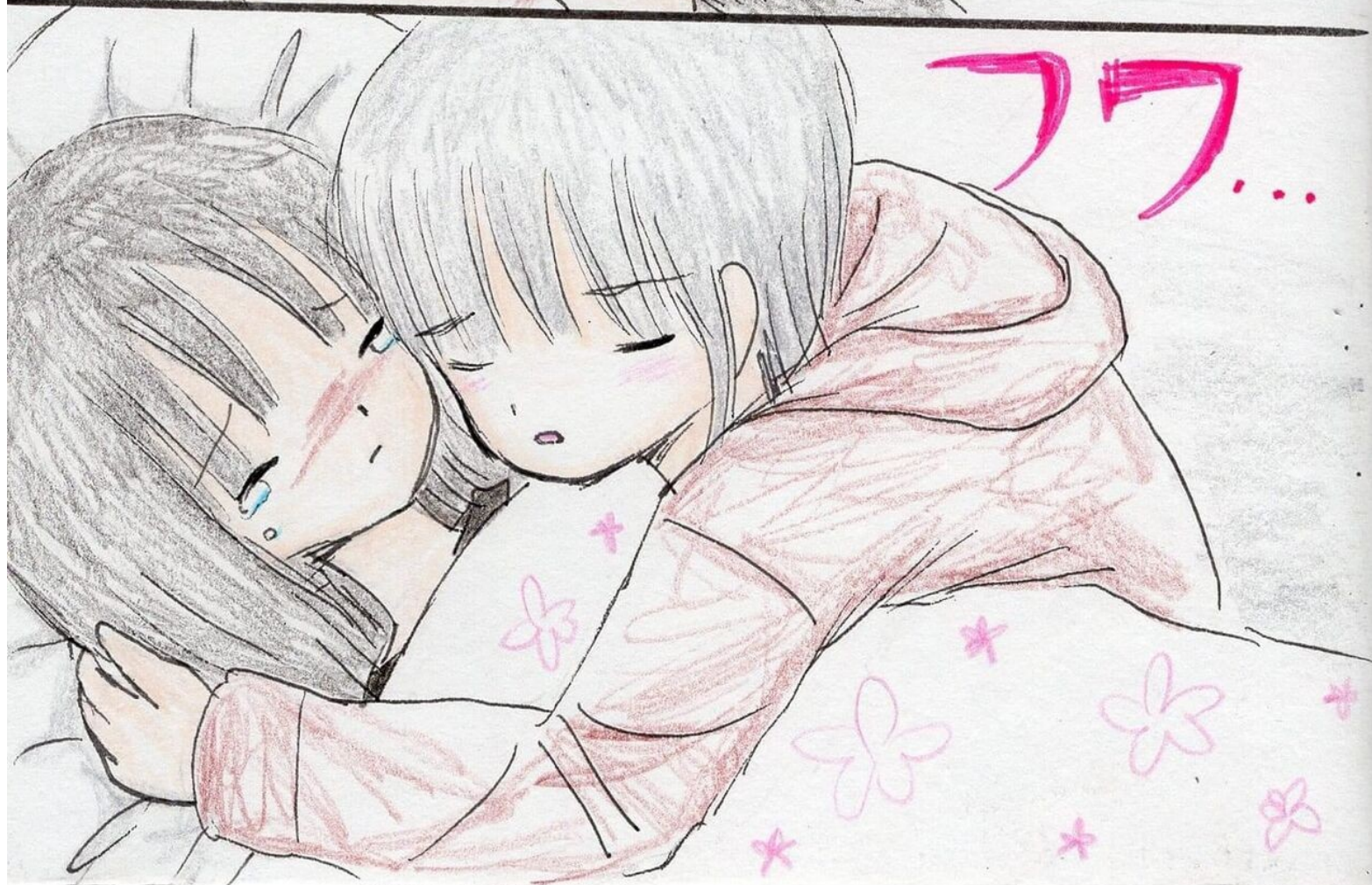


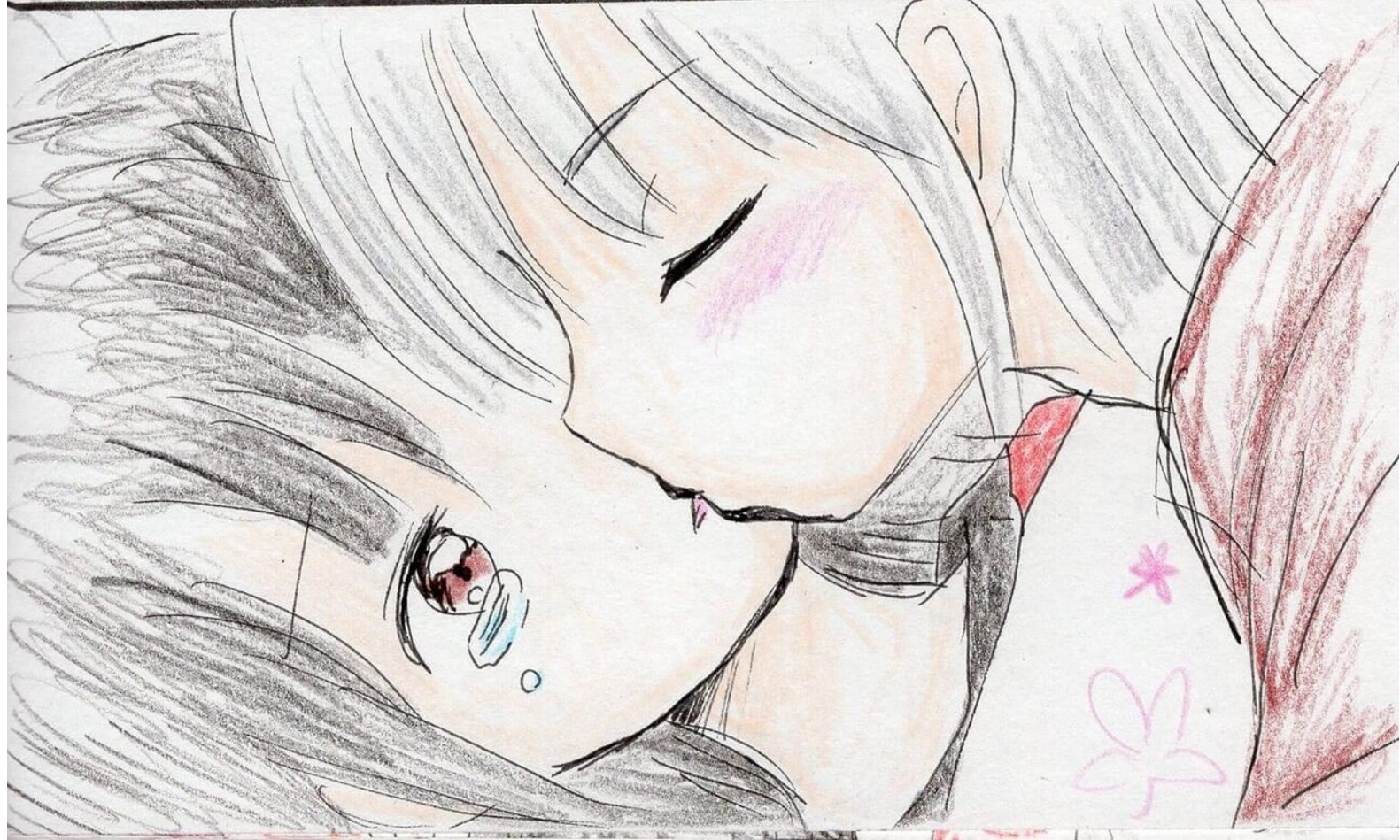
嫌...

怖い...



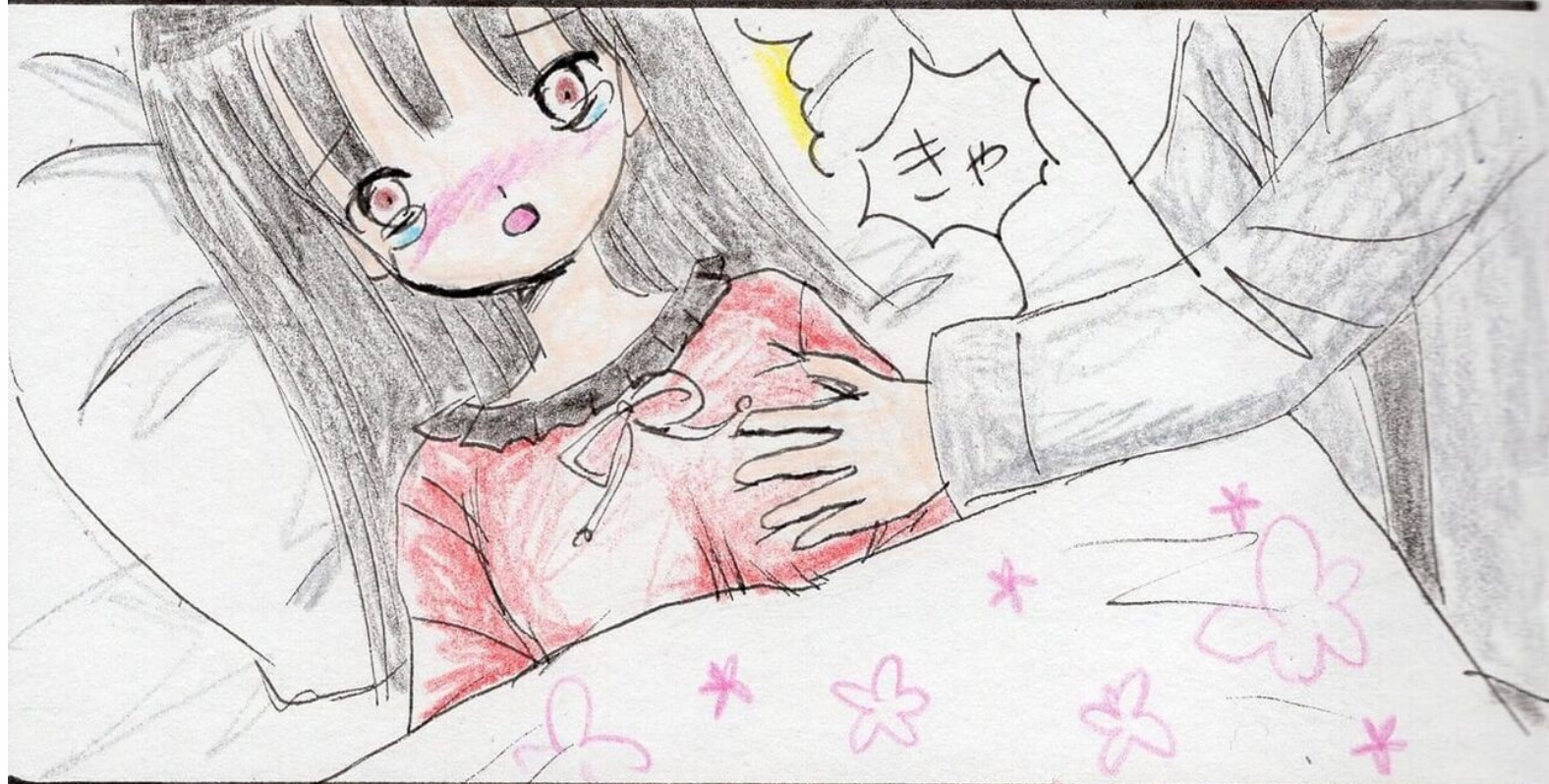
フフ...





な... んで...

ドキ



ドキドキ  
してるね

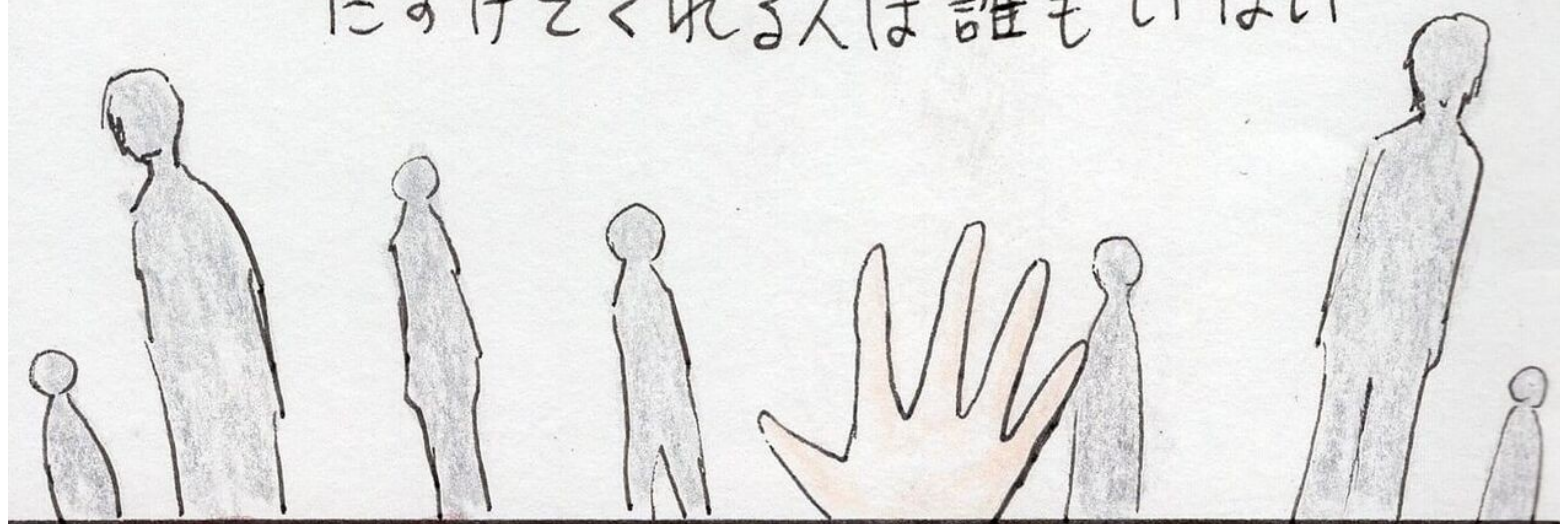


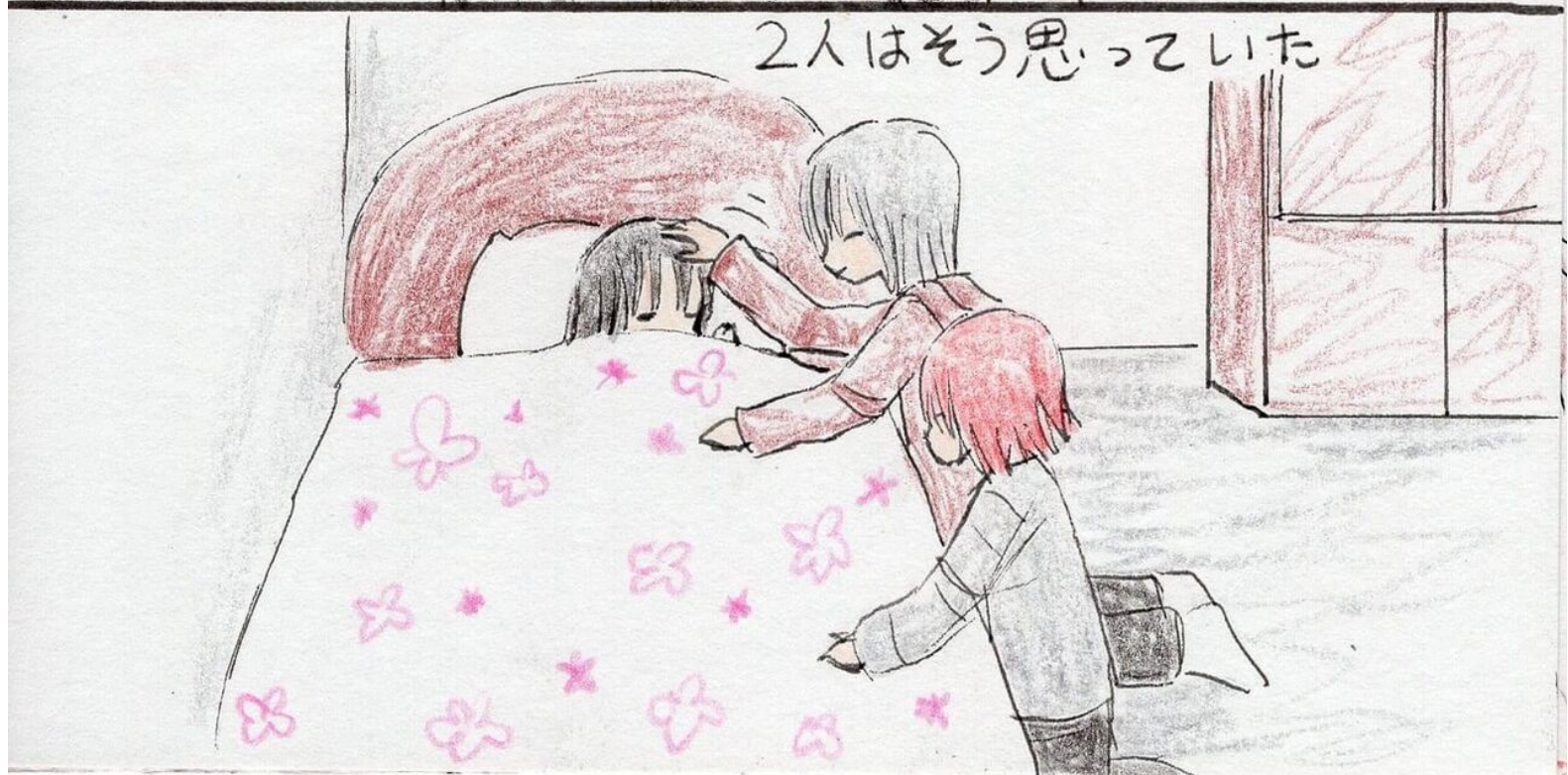
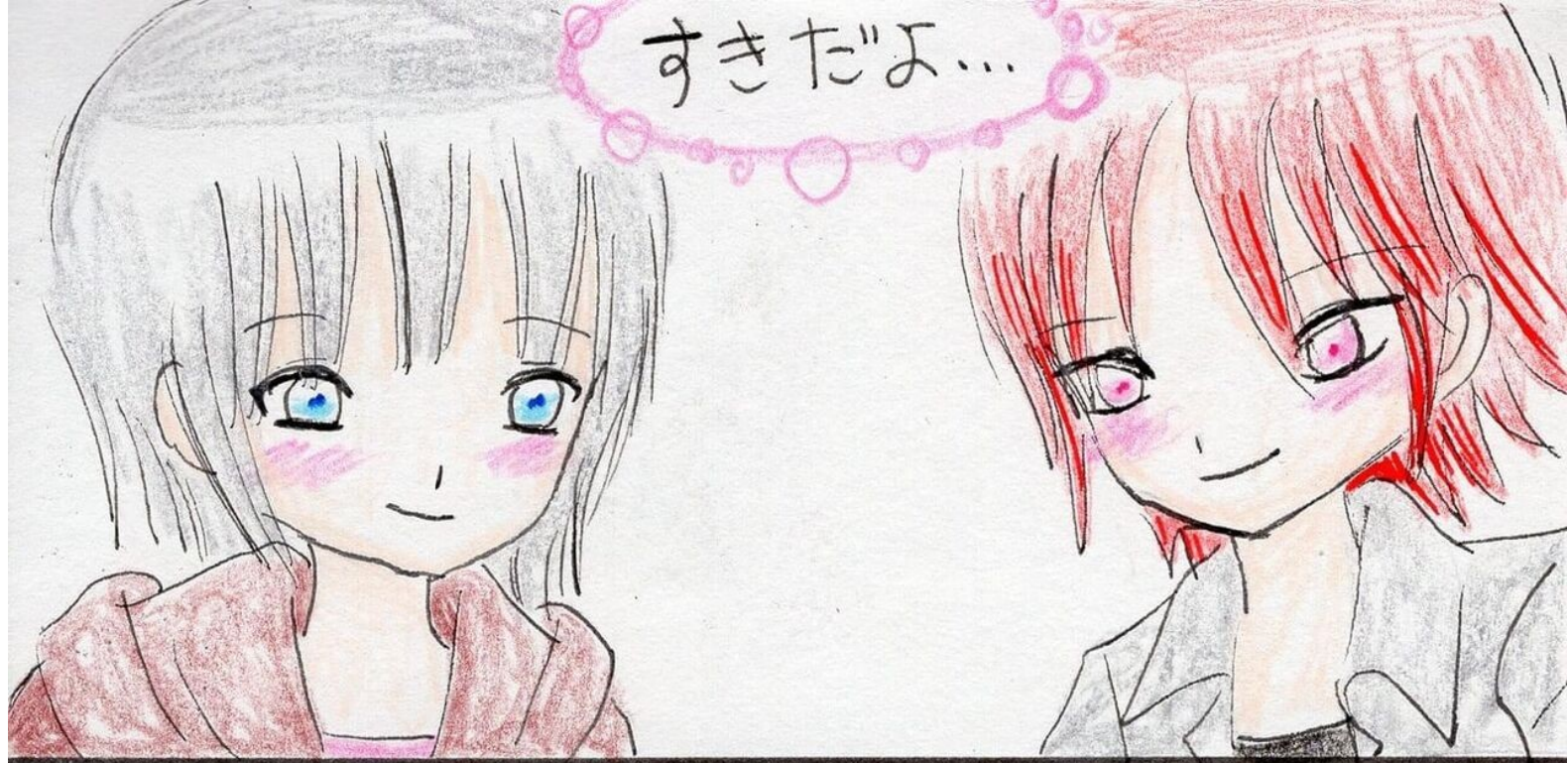


いつも... そうだった...



私がいじめられてるとき  
たすけてくれる人は誰もいない





雫はその日 夕食を  
作ってくれた



ごはんできたよ  
食べな



あまり  
食欲ないな...



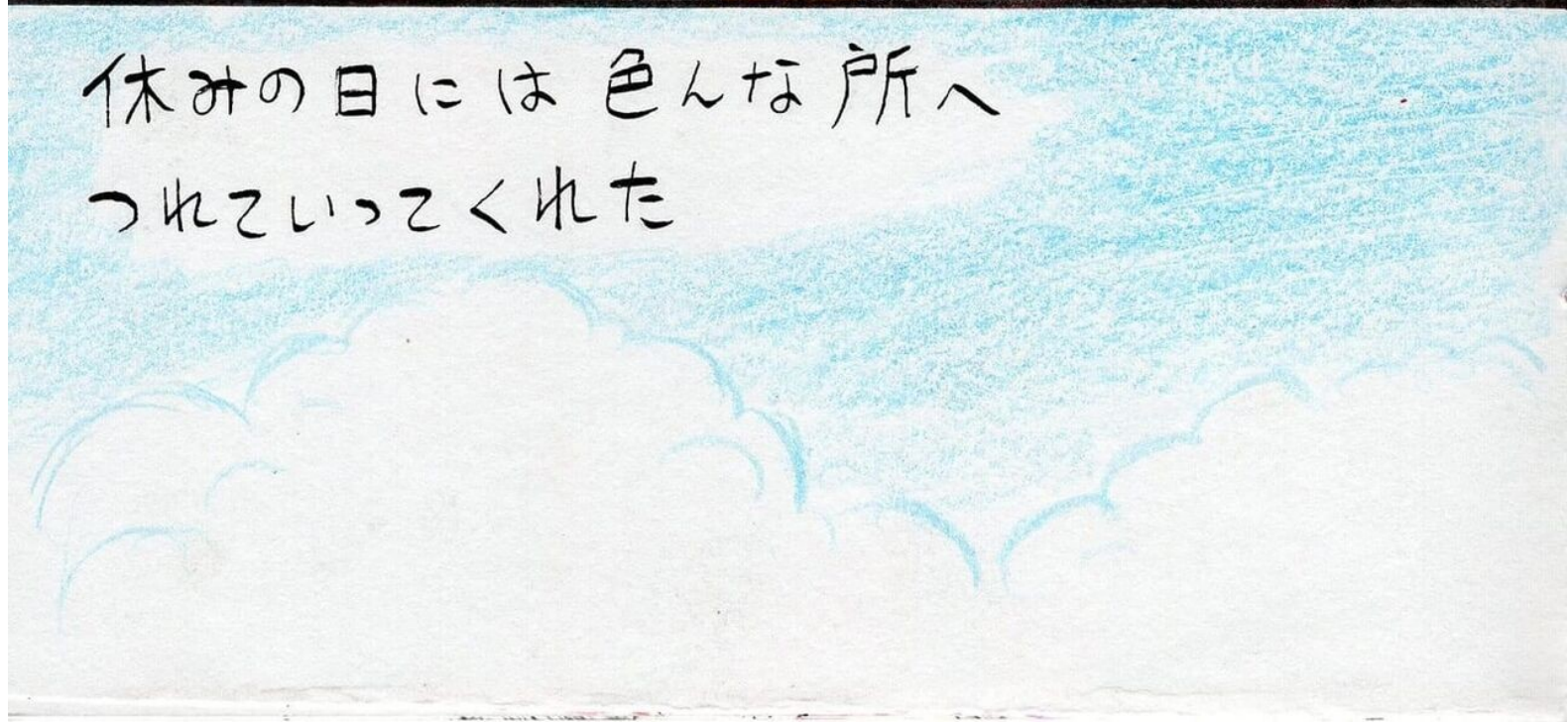
次の日2人は  
仕事にいくと  
言い掛けて  
いった

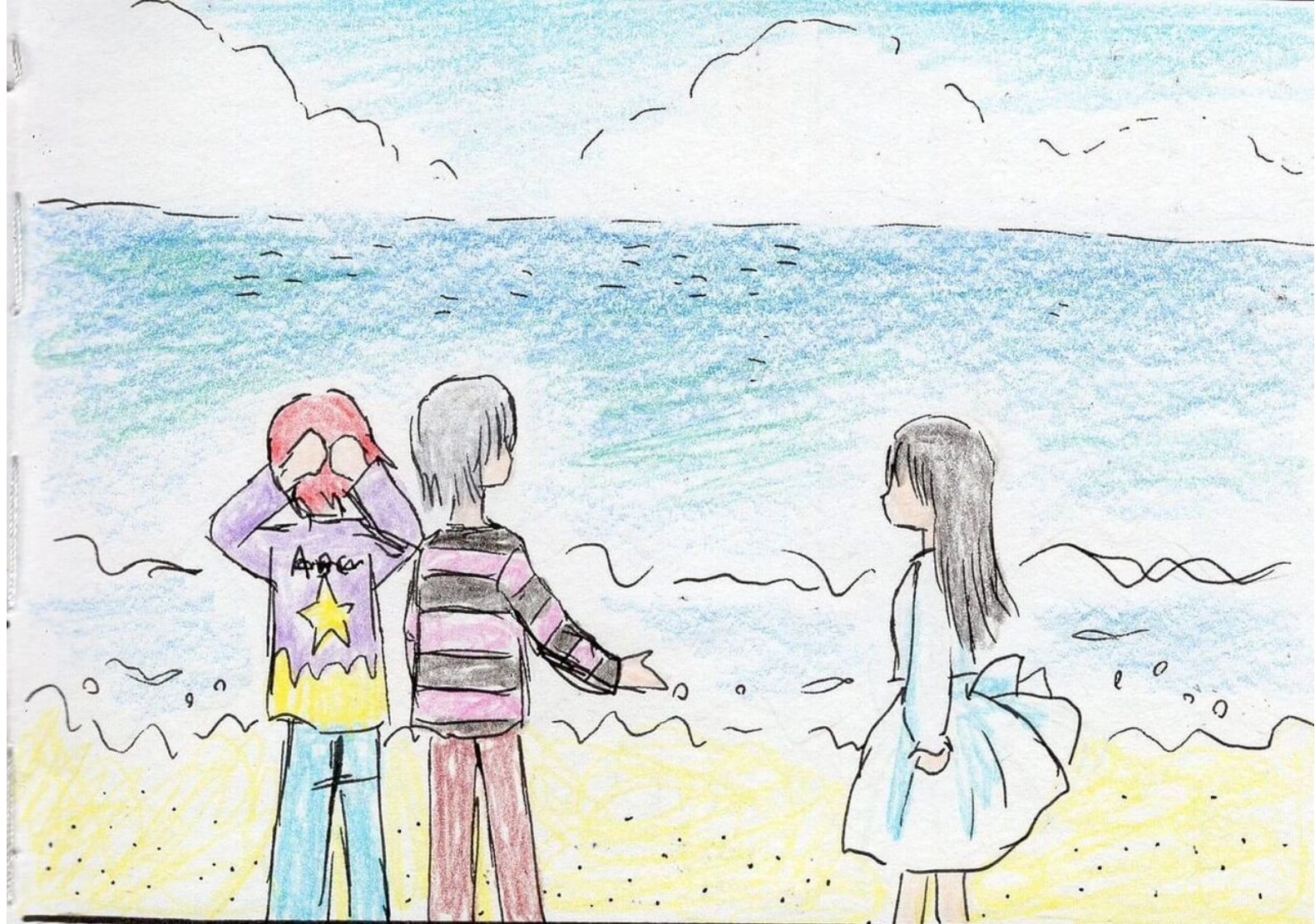


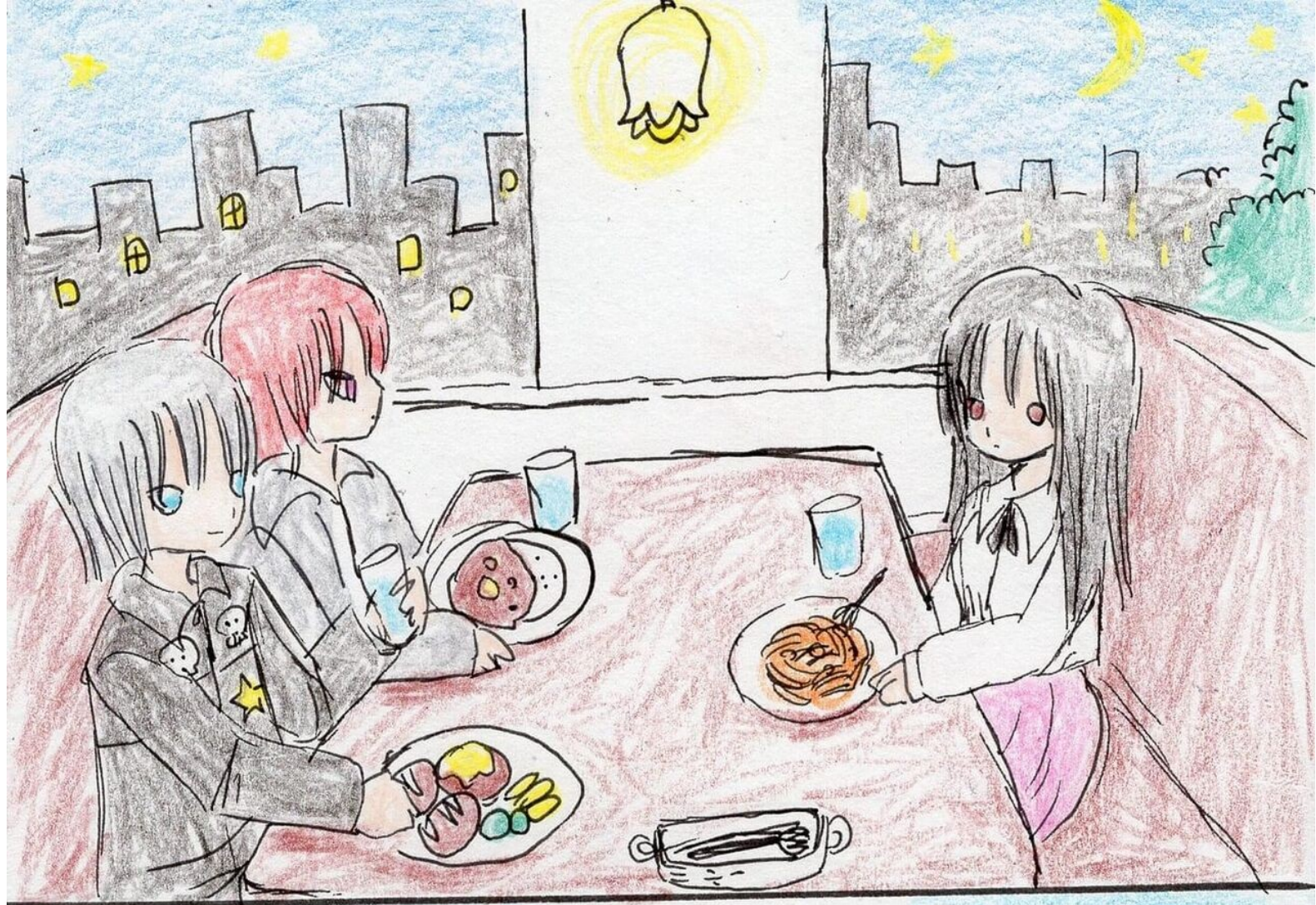
夜には帰ってきて  
また3人で  
すごした



休みの日には色々な所へ  
つれていってくれた







2人はいつもやさしかった



そばにいてくれるのは2人しかいない

楽しい...

そう思いはじめていた



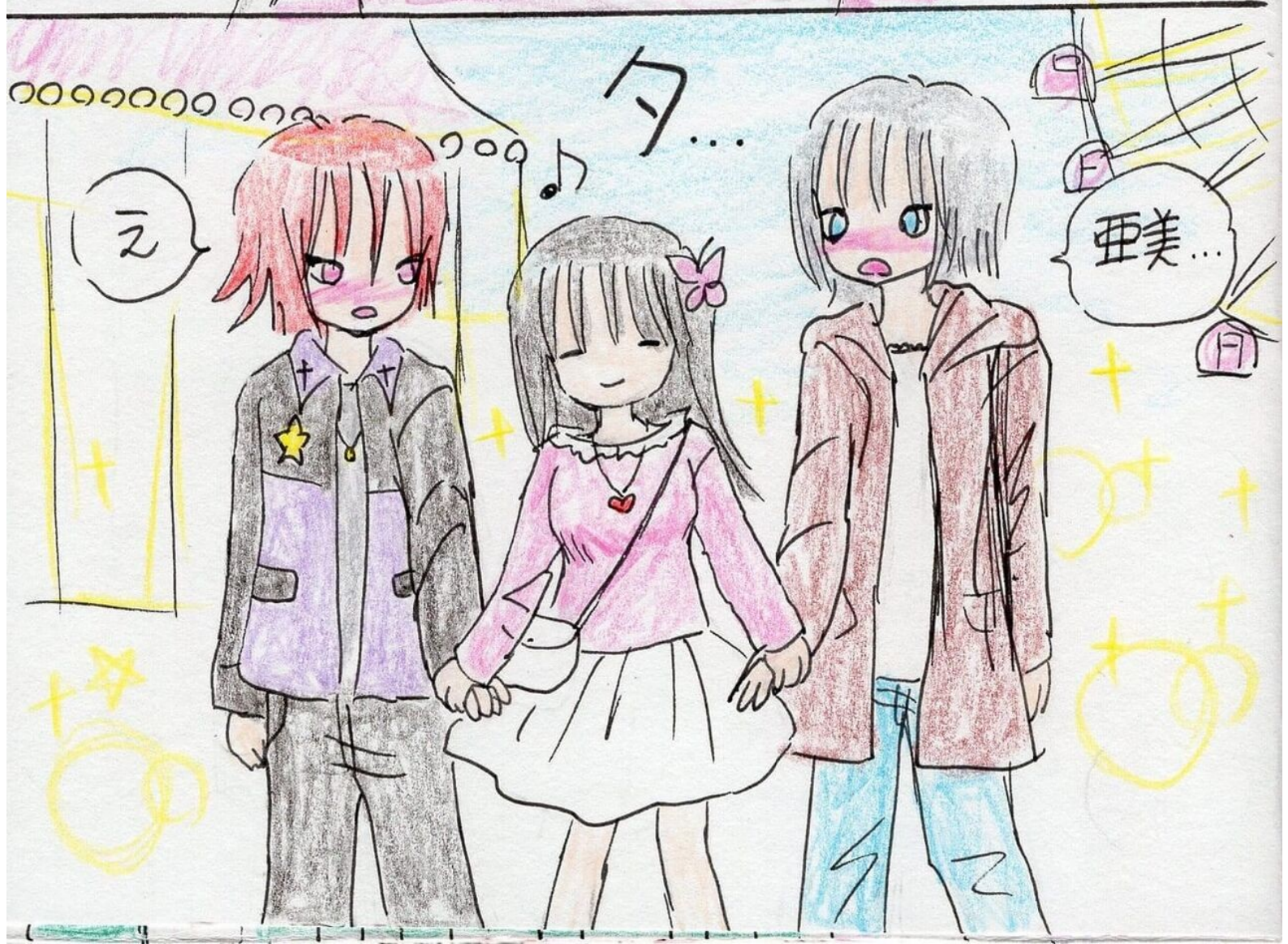
隼と敦は私のことが好きだと言った  
亜美にはだんだんと伝わってきた



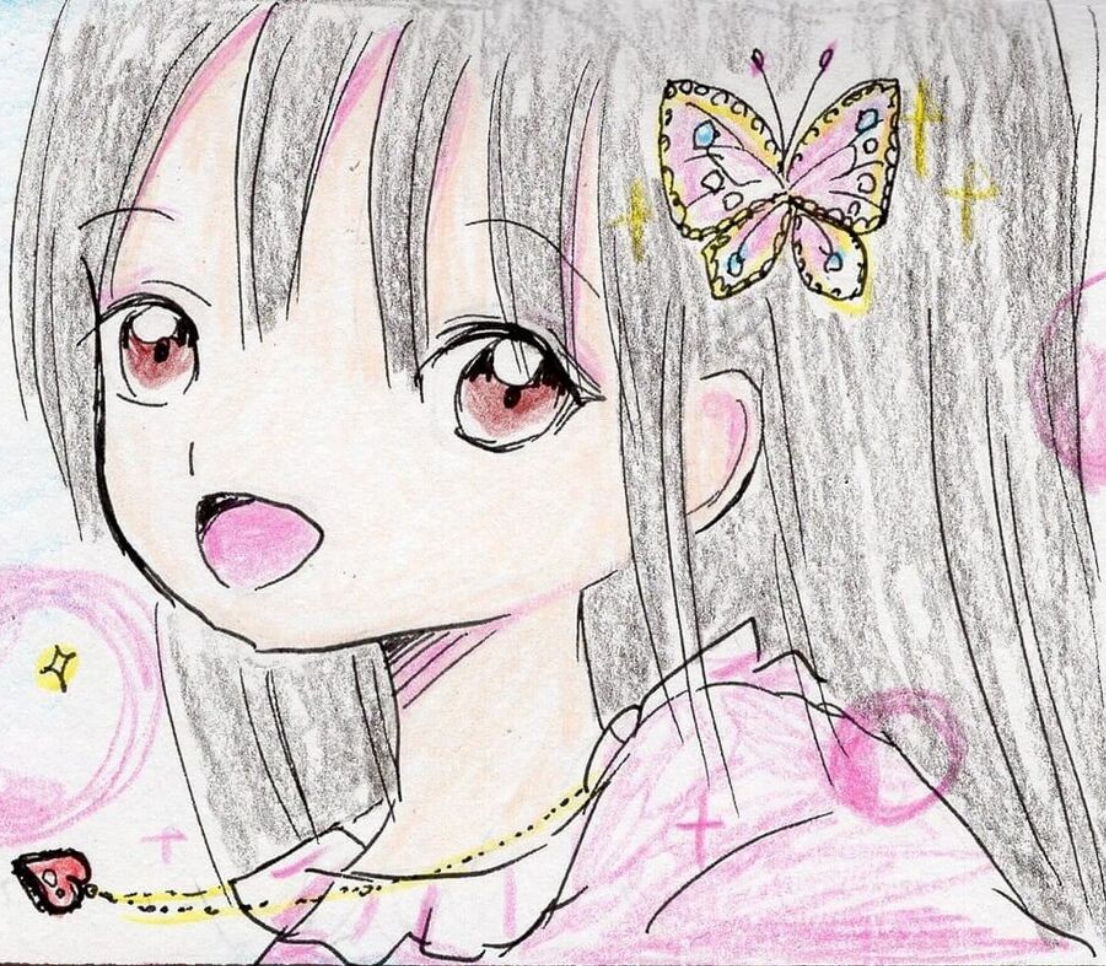
私のことが好きだった...



ありがとう... 隼... 敦...  
私... 2人が好き!



次はあっち  
いこー♪



笑った  
顔の方が  
カワイイ...



おしまい